

目的・目標

- 「三重の困難」に対応した支援の再定義
- 専門的研修プログラムの開発と教育実践
- 持続可能な指導者育成体制の確立

取組概要 (A 知的障害を併せ有する盲ろう児に対する指導の充実)

1. 教職課程における指導実践と成果の可視化

「重複障害児教育総論」等の教職科目において三重重複障害に特化した単元を設定し、令和7年度後学期に全15回(講義4回、演習7回、ケーススタディ4回)の実証授業を実施した。レポートや模擬指導案作成を通じ、受講生の理解度と実践力を可視化した。

2. 現職研修の試行と教材・ツールの整備

免許法認定通信教育において次年度向けプログラムを試行したほか、触覚教材キットやオブジェクトキュー見本、スケジュール支援具プロトタイプ等の演習用教材を整備し、専門性向上のための環境を構築した。

3. 支援モデルの体系化とガイドラインの試作

アセスメントツール一覧や指導プロセスフローチャート等を含む「三重の困難に対応した盲ろう児支援モデル」を抽出し、実践的な支援ガイドラインの試作を行った。



講義動画

## 本事業の成果

- 体系的な教育プログラムの確立

三重重複障害を扱う講義・演習プログラムを教職課程に確立し、受講生の障害理解度および実態に即した模擬指導案作成能力を向上させた。

- 効果的な支援技術・アセスメントの再確認

知的障害特別支援学校等において潜在する感覚障害を発見するためのスクリーニング手法の重要性を確認した。

また、高度な認知能力を前提としないオブジェクトキュー等の支援技術の有効性を実証した。

## 課題 ・ 今後の 展望

- 全国的な実態把握とコンサルテーションの展開

令和8年度は全国規模のWeb調査を実施して知的障害を合併する盲ろう児の在籍状況を明らかにする。その結果に基づき、新規協力校への訪問コンサルテーションおよび実地支援を推進する。

- 事例の般化によるガイドラインの完成

横浜訓盲院等の先進的機関への調査を通じ、独自のサインや共通化された支援事例を収集・分析することで、汎用性の高い実践的ガイドラインとして体系化を図る。

- 持続可能な指導者育成体制の定着

新設する夏季公開講座「盲ろう・重複障害概論」や通信教育教材のアップデートを通じ、事業終了後も専門性を継続的に継承できる体制を確立する。